

## エイダン・ロバーツ (Aidan Roberts) さんによるスピーチ原稿

トリニダード・トバゴ人は国を自慢する理由がいっぱいあります。まず、トリニダード・トバゴでは自然が美しいし心が温かい人は多いし新しいジャンルも発展しました。私にとって最も自慢することはスティールパンです。スティールパンはトリニダード・トバゴを完全に代表すると思います。シンプルで美しいです。スティールパンは、トリニダード・トバゴ人のパッションと創造性のシンボルです。

ある人にとってのゴミは、別の人にとっての宝物です。最初中古のドラム缶から作られたスティールパンはとっても珍しいです。19世紀の終わりに発展されて現代のスティールパンは20世紀の初めに作られました。奴隷にされた人々が1877年にドラムで演奏することを禁止された時、台所用品や竹の茎などの通常の物を使い始めました。1930年代までにドラム缶が人気になって正当なスティールパンは、試行錯誤に作成されました。何百人もの人々はスティールパンの開発に創造性と革新を貢献しました。その中でも有名な先駆者はWinston Spree Simon や Clive Bradley や Jit Samaroo や Lennox Boogsie Sharpe などの人々です。

スティールパンは、連帯感を生みます。トリニダード・トバゴ出身ではなくてもカリブの人々はスティールパンの叩き方を学んでスティールバンドに入ります。スティールパンはカリブを本当に代表しています。明らかな音があるのでトリニダード・トバゴの国立楽器知らない人はこの音を聞きたらすぐにカリブのイメージを考えます。例えば最も忘れられないメロディーの1つはアンダー・ザ・シーのイントロです。

今年2月にカーニバルではクルーとして働いてスティールパンがもっと好きになりました。それまで、学校が忙しかったのでカーニバルに参加したことがありませんでした。でも今年スティールパンとスティールパンの文化について理解しました。最大のスティールパンイベントであるパノラマを見ることができました。パニストたちが踊って楽しんでいるのを見て、ここまで来るのに何ヶ月も苦勞したことを知って私は本当に誇りに思いました。